

インタビュー

スペースエントリー(株)
代表取締役

熊谷 亮一氏



創業の経緯は。

などに従事した。そのなかで、きぼうの実験運用管制官や生物実験装置管制官チームの初代リード

熊谷 先に述べた企業
がきぼうを有償利用する
プロジェクトの1つとし
て、トヨタ自動車(株)らが

創業の経緯は。
GEMPAKは、ロボッ
トチームと実験に必要な
封入環境を組み合わせた
自動実験システムで、当
社はシステムインテグレ

その一環として、I
SSのなかで空間を浮遊
して動く船内ドローンの
開発を進めており、この
宇宙用ドローンを一般の
方が地上から操作した
り、ドローンのカメラ映
像から宇宙を疑似的に体
験していたくオンライン
宇宙旅行などを検討し
ている。現在、宇宙とデ
ジタルの融合を目指した
研究開発を行う(株)スぺ

有償利用する取り組みで
は、一から製品を開発す
るのではなく、各企業が
持つ製品を宇宙環境で適



誰もが宇宙開発に参加
できる社会を形成へ

ストも抑制できると考え
ている。

宇宙関連製品に搭
載する部品について。

熊谷 現在、宇宙関連
製品は小ロットのものが
大半で、搭載する部品も
10個、100個レベルの
特注品やカスタム品とな
ることが多い。しかし、
低軌道衛星など従来に比
べてロットが多いものも
出てきている。さらに今
後、宇宙向けの大量生産
品が出てくる機運も高ま
っており、ロボットもそ
の1つとなる可能性がある

て、地上における試験な
どを体験できる仕組みも
今後構築していきたいと
考えている。

今後の展開は。

熊谷 まずは、GEM
PAKや宇宙用ドロー
ンに関する取り組みを着実
に進めていきながら、次
世代の宇宙用ロボットに
関するニーズなども調べ
ていく。次世代ロボット
の内容はまだまだ模索中
だが、ISS 船外で活動
できるものや人型ロボッ
トなども可能性としては
ありえるだろう。そうし
た開発と並行して、一般
の方にも宇宙を身近に感
じていただき、誰もが宇
宙開発に参加できる社会
形成を含めて宇宙関連市
場全体を盛り上げていき
たいと考えており、最終
的には様々な太陽系の惑
星や宇宙環境でロボット
が活動し、太陽系をすべ
て人類の商業圏や活動領
域にすることを目指して
いきたいと思う。

スペースエントリー(株)
(茨城県つくば市)は、
2023年設立のスター
トアップ企業。宇宙分野
における幅広い経験とネ
ットワークを活かし、宇
宙用ロボットの開発など
を進めており、誰もが宇
宙開発に参加できる社会
や、太陽系の様々な惑星
でロボットが活動する未
来の実現を目指してい
る。今回、代表取締役の熊
谷亮一氏に話を伺った。

熊谷 1994年に国
際宇宙ステーション(I
SS)の運用利用支援な
どを行う有人宇宙ステ
ム(株)(JAMSS)に入
社し、ISSの日本実験
棟「きぼう」で利用する
ライフ系実験装置の開発

などを務めたほか、企業
がきぼうを有償利用する
プロジェクトの支援業務
にもグループリーダーと
して関わらせていただ
いた。その後、ロボットペ
ンチャーの avatar
in(株)にてプロダクトマ
ネージャーを務め、(株)D
igitalBlast
にて宇宙実験装置の開発
などに従事したのち、2
023年6月に当社スぺ
ースエントリーを創業し
た。

宇宙用ロボットの開発を推進

26年春ごろの打ち上げを目標

開発した小型の人型ロボ
ット「KIROBO」
(キロボ)をISSに滞在
させる取り組みがあり、
そのなかでロボット技術
に興味を持った。そして、
私が持つ宇宙分野の知見
とロボット技術を融合し
た宇宙専門ロボットの会
社を立ち上げようと考え
たことがきっかけだ。

熊谷 大きく分けて2
つある。1つはJAXA
(宇宙航空研究開発機構)

熊谷 一般の方に宇宙
を身近に感じていただ
き、宇宙業界へ気軽に参
加いただけるようなサー
ビスの創出を目指してい

熊谷 先に述べたキロ
ボのプロジェクトをはじめ、
企業によるきぼうを

熊谷 先に述べたキロ
ボのプロジェクトをはじめ、
企業によるきぼうを

熊谷 大きく分けて2
つある。1つはJAXA
(宇宙航空研究開発機構)

熊谷 一般の方に宇宙
を身近に感じていただ
き、宇宙業界へ気軽に参
加いただけるようなサー
ビスの創出を目指してい

熊谷 先に述べたキロ
ボのプロジェクトをはじめ、
企業によるきぼうを

熊谷 先に述べたキロ
ボのプロジェクトをはじめ、
企業によるきぼうを

熊谷 先に述べたキロ
ボのプロジェクトをはじめ、
企業によるきぼうを

熊谷 先に述べたキロ
ボのプロジェクトをはじめ、
企業によるきぼうを

聞き手・副編集長 浮
島哲志